

H23 シカ年度 ルサー相泊地区におけるエゾシカ捕獲結果

★同地区の南半分、羅臼町ルサ川河口～昆布浜の約 4 km×500 m の範囲内において、4 つの捕獲手法の組み合わせで、**計 188 頭**（オス成獣 80 頭、メス成獣 84 頭、0 歳 24 頭）を捕獲。
 捕獲個体は、ほぼ全てを斜里町のエゾシカ有効活用施設へ引き渡し。

表 1-3-1. ルサー相泊地区における H23 シカ年度のエゾシカ捕獲実施状況（実施期間）

	1月	2月	3月	4月
大型囲いわな	[実施期間の棒グラフ]			
ルサ	1月20日～		稼働期間 ～4月30日	
小型囲いわな	[実施期間の棒グラフ]			
昆布浜	1月21日～	稼働期間	～3月15日	雪崩で施設損壊
流し猟式SS	[実施期間の棒グラフ]	[実施期間の棒グラフ]	[実施期間の棒グラフ]	[実施期間の棒グラフ]
北浜～昆布浜	1月1回	2月5回	3月4回	
巻き狩り		[実施期間の棒グラフ]		
北浜～昆布浜		2月2回	希少鳥類の繁殖期に配慮し、3月以降は実施せず。	

※灰色部分は餌付けのみ実施等、囲いわなが完全な稼働状態ではなかった時期を示している。

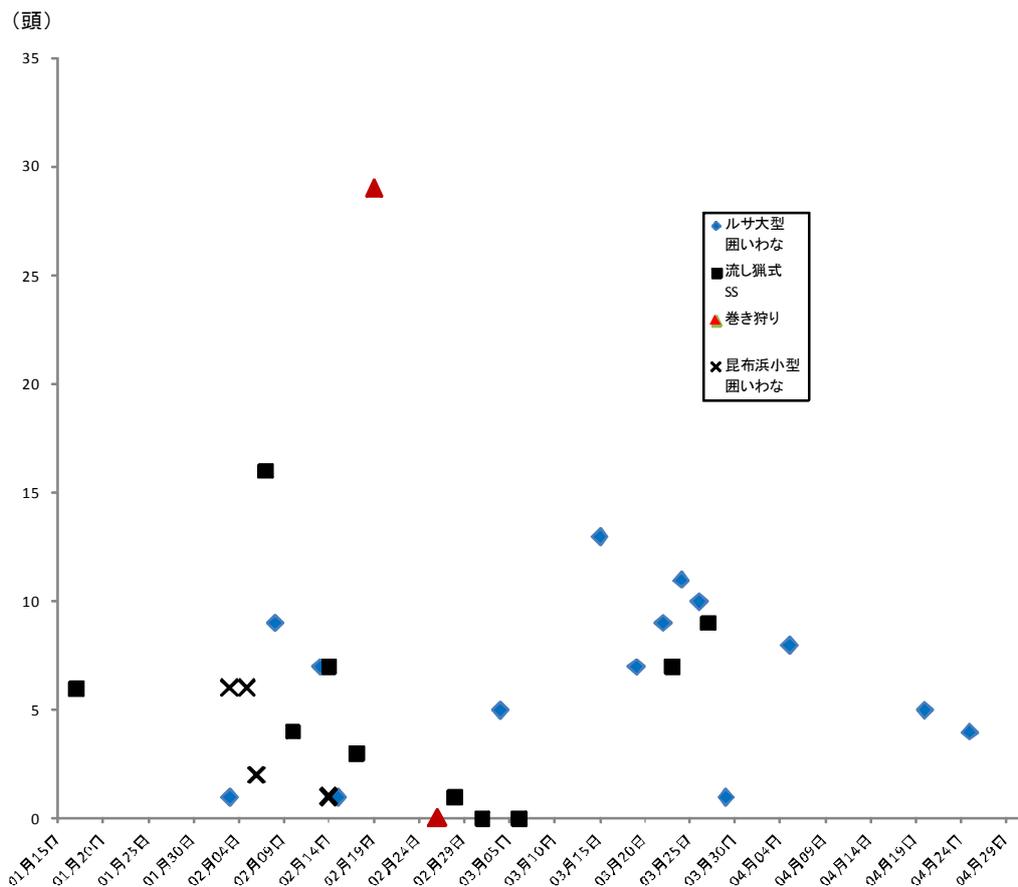


図 1-3-1. ルサー相泊地区における H23 シカ年度（2012 年 1-4 月）の手法別・日別エゾシカ捕獲結果

表 1-3-2. ルサー相泊地区における H23 シカ年度（2012 年 1-4 月）のエゾシカ捕獲試行結果

捕獲手法	場所	オス 3-4尖	オス 1-2尖	メス 成獣	0歳	計
大型囲いわな	ルサ川左岸	24	23	32	12	91
小型囲いわな	昆布浜	4	2	7	2	15
流し猟式シャープ シューティング	北浜～昆布浜	23	2	23	5	53
巻き狩り	北浜～昆布浜	2	0	22	5	29
合計		53	27	84	24	188

<捕獲効率> 表 1-3-3 参照

- ・人日あたりの捕獲頭数は、大型囲いわなが最も多く（2.7 頭/人日）、巻き狩りが最も少なかった（0.9 頭/人日）。
- ・ただし、巻き狩りは 2 月に同じ場所にて短い間隔で 2 回実施しており、2 回目は目撃・捕獲ともに 0 頭であった。仮に 2 回目の巻き狩り（10.5 人日分）を実施しなかったとすると（1 回のみ実施していた場合）、1.3 頭/人日となり、流し猟式 SS と並ぶ捕獲効率となる。
- ・流し猟式 SS も、前日の餌付け誘引作業時に目撃が無い状況で捕獲作業を強行した日が 3 回あり、これら（7.2 人日、1 頭捕獲）を除くと、1.5 頭/人日となる。エゾシカが少ない時に餌付け誘引作業の実施頻度を下げれば、さらに人日数を減らすことが可能。

表 1-3-3. H23 シカ年度の手法別エゾシカ捕獲効率（人日あたりの捕獲頭数）

捕獲手法	作業内容	のべ作業 作業回数	のべ作業 人数(人)	のべ作業 時間(h)	1回あたりの 作業人数 (最少～最大)	人工数	捕獲数	頭 / 人日
						(人日) a	(搬出数) b	b / a
ル 大型囲いわな		61	141	111.7	1～6人	33.6	91	2.7
サ 小型囲いわな		30	71	42.0	1～5人	13.9	15	1.1
相泊地区	①餌付け誘引	45	94	60.0	1～4人	16.5	—	
	②捕獲	10	66	30.5	5～8人	25.5	53	
	小計	55	160	90.5	—	42.0	53	1.3
区	①予備調査	4	10	14.0	1～4人	4.1	—	
	②捕獲	2	59	7.5	28～31人	27.9	29	
	小計	6	69	21.5	—	32.0	29	0.9
合計		152	441	265.7	—	121.5	188	1.5

※人工数は、1回の作業ごとに算出したものを合計している。1回の作業の人工数 = (人数×時間) / 8時間。

※捕獲個体の運搬(現場 → 斜里町内の施設)の人工数は、有効活用事業者が対応したため含めていない。

<複数の捕獲手法の相互作用>

- ・前述 4 つの捕獲手法のうち、小型囲いわな、流し猟式 SS および巻き狩りの 3 手法は、2 月下旬～3 月中旬に捕獲効率が大幅低下（対象エリアにおける目撃頭数も激減） → 北浜～昆布浜の同じエゾシカ集団を 3 手法で競合しつつ捕獲していた可能性大。
- ・ルサ川左岸の大型囲いわなが捕獲対象としていた集団は、北浜～昆布浜のエゾシカ集団とは別群か？
- ・第 1 回巻き狩り（2/19 実施）の攪乱効果は甚大 → 巻き狩りは、他の手法である程度まで個体数を減らした後、その冬の最後に 1 箇所あたり 1 回だけ実施すべき捕獲手法。
- ・今冬は多雪と（早期の巻き狩りによる）攪乱により、強風で雪が飛ばされる北向きの急斜面付近（ルサー相泊地区の場合は 400～500 m の高標高地になる）で越冬する個体が多かった可能性大。
- ・南向きの海岸段丘斜面で全層雪崩が多発した後（3 月下旬以降）は、海岸沿いの低標高地で再びエゾシカの見撃頭数が増加（高標高地から低標高地へ下りてきた？ 複数の標識個体も同様の動き）。

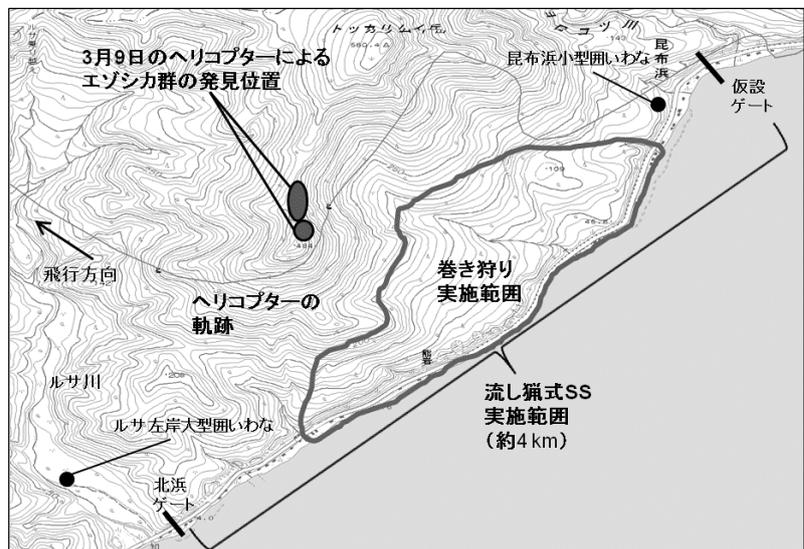


図 1-3-2. H23 シカ年度のエゾシカ高標高越冬地の位置（一例）